



**2022年2月期 第3四半期
決算補足説明資料**

株式会社 オンワードホールディングス
2022年1月13日

オンワードホールディングス財務・経理・IR担当の佐藤でございます。

常日ごろ、当社の事業に関しまして大変お世話になっております。

この場をお借りいたしまして、心より御礼を申し上げます。

本日は、2022年2月期第3四半期の当社グループの決算内容につきまして、補足説明資料に沿ってご説明をさせていただきます。

まず3ページをご覧ください。

P.2-3	...	3Q実績 連結合計
P.4	...	3Q実績 事業セグメント別
P.5-7	...	3Q実績 事業会社別
P.8	...	新収益認識基準 早期適用について
P.9	...	財務状況
P.10-13	...	DATABOOK



(3Q期間実績)

- 昨年10月初めに緊急事態宣言が解除されて以降、実店舗の集客が緩やかに回復して主力の国内アパレル事業が堅調に推移した。また、在庫管理の徹底や販管費の効率化により営業利益率が4.1%上昇した。このため期間利益については、営業利益23億円、経常利益21億円、当期純利益6億円と、全利益段階で増益を達成した。
- 期間売上高については、イタリア事業を中心としたグローバル事業構造改革の影響で98億円減収の436億円となったが、既存事業ベースでは23億円の増収を確保した。
- 期間EC売上高については、新規D2Cブランド事業が順調に成長したことや、ECと実店舗の在庫一元管理システムが本格稼働し欠品ロスが減少したことなどから、前年比11%増の107億円と伸長した。

(4Q期間および通期見通し)

- 4Qに入ってから冷え込みが強まったこともあり冬物衣料の販売が堅調であることや、本格展開を始めたOMOストアの売上が健闘していることなどが後押しになり、国内アパレル事業の回復傾向が引き続き継続している。
- イタリア事業を中心としたグローバル事業構造改革の成果が全面的に現れてきており、海外事業の期間利益の大幅な改善を見込む。通期としては3期ぶりとなる、全利益段階での黒字転換の予想を維持する。

収益認識基準変更に伴い前年値組替※1

	上期				3Q期間				3Q累計				組替前#2	
	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	21.2期	
	1	売上高	80,785	84,897	▲ 4,112	95.2%	43,570	53,388	▲ 9,818	81.6%	124,355	138,285	▲ 13,930	89.9%
2	売上総利益 (売上比)	41,018 50.8%	38,713 45.6%	+2,305 +5.2%	106.0%	24,441 56.1%	25,846 48.4%	▲ 1,405 +7.7%	94.6%	65,459 52.6%	64,559 46.7%	+900 +5.9%	101.4%	57,226 43.3%
3	販管費 (売上比)	44,312 54.9%	49,692 58.5%	▲ 5,380 ▲ 3.6%	89.2%	22,095 50.7%	25,129 47.1%	▲ 3,034 +3.6%	87.9%	66,407 53.4%	74,821 54.1%	▲ 8,414 ▲ 0.7%	88.8%	67,488 51.0%
4	営業利益 (売上比)	▲ 3,294 -	▲ 10,979 -	+7,685 -	-	2,346 5.4%	717 1.3%	+1,629 +4.1%	327.2%	▲ 948 -	▲ 10,262 -	+9,314 -	-	▲ 10,262 -
5	経常利益	▲ 2,862	▲ 11,454	+8,592	-	2,103	1,209	+894	173.9%	▲ 759	▲ 10,245	+9,486	-	▲ 10,245
6	当期純利益	7,448	▲ 15,188	+22,636	-	634	592	+42	107.1%	8,082	▲ 14,596	+22,678	-	▲ 14,596
7	EBITDA※3	▲ 687	▲ 7,989	+7,302	-	3,519	2,203	+1,316	159.7%	2,832	▲ 5,786	+8,618	-	▲ 5,786

※1. 前年同期の数値は収益認識基準の変更を反映し、当年値と同様の基準に置き換えている

21.2期3Q累計の数値は、基準変更による組替額 売上高+6,058百万円 売上総利益-販管費+7,333百万円を調整

※2. 組替前の前年同期の数値は『2022年2月期 第3四半期決算短信』の、2021年2月期第3四半期の数字に当たる

※3. EBITDA (営業利益+減価償却費およびのれん償却費)

こちらに、上期と第3四半期期間および第3四半期累計期間の連結合計の実績数値を記載しております。

第3四半期期間は、昨年10月初めに緊急事態宣言が解除されて以降、実店舗の集客が緩やかに回復し、主力の国内アパレル事業が堅調に推移いたしました。

また、在庫管理の徹底や販管費の効率化により営業利益率が4.1ポイント上昇いたしました。このため期間利益につきましては、営業利益23億円、経常利益21億円、当期純利益6億円と、全利益段階で増益を達成いたしました。

売上高につきましては、前年同期比81.6%、98億円の減収で、436億円となりました。

減収の要因としては、一昨年度より推進しておりますグローバル事業構造改革による、不採算事業の廃止等が挙げられます。これによる第3四半期期間の影響額は121億円で、これを除きますと、継続している既存事業に関しましては前年同期比で5.6%の売上増、金額で23億円の増収となります。

また、その内訳として、当社が力を入れておりますEコマースの売上高につきましては、10ページの販路別売上高に記載しております。

販路別売上高

海外を含む連結合計のEC売上高は107億円（前年同期比11%増）となった。
国内事業のEC化率は27.0%、自社EC比率は86.6%となった。

(百万円)

	百貨店	SCその他	リアル販路計	自社EC	他社ECメール	EC計	売上高計	EC化率	自社EC比率
1 オンワード豊山	10,570	8,608	19,178	6,102	818	6,920	26,098	26.5%	88.2%
2 売上構成比	40.5%	33.0%	73.5%	23.4%	3.1%	26.5%	100.0%		
3 前年同期比	92.6%	104.6%	97.6%	101.8%	143.3%	105.4%	99.6%	1.5%	-3.1%
4 国内EC対象事業会社8社※	2,305	6,070	8,375	2,701	546	3,247	11,622	27.9%	83.2%
5 国内EC対象事業会社計	12,875	14,678	27,553	8,803	1,364	10,167	37,720	27.0%	86.6%
6 売上構成比	34.1%	38.9%	73.0%	23.3%	3.6%	27.0%	100.0%		
7 前年同期比	94.3%	98.8%	96.7%	108.6%	131.4%	111.2%	100.2%	2.7%	-2.1%

※ エコマースを運営している国内事業会社
(アイランド ティアクラッセ オンワードパーソナルスタイル チャコット クリエイトイヨーコ 大和 インティメイツ KOKOBUY)

第3四半期期間のEコマースの売上高は、海外を含む連結合計で前年同期比11%増の107億円となり、引き続き順調に売上の伸長が図れております。

収益認識基準変更に伴い前年値組替※1

	上期				3Q期間				3Q累計				組替前#2	
	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	21.2期	
	1	売上高	80,785	84,897	▲ 4,112	95.2%	43,570	53,388	▲ 9,818	81.6%	124,355	138,285	▲ 13,930	89.9%
2	売上総利益 (売上比)	41,018 50.8%	38,713 45.6%	+2,305 +5.2%	106.0%	24,441 56.1%	25,846 48.4%	▲ 1,405 +7.7%	94.6%	65,459 52.6%	64,559 46.7%	+900 +5.9%	101.4%	57,226 43.3%
3	販管費 (売上比)	44,312 54.9%	49,692 58.5%	▲ 5,380 ▲ 3.6%	89.2%	22,095 50.7%	25,129 47.1%	▲ 3,034 +3.6%	87.9%	66,407 53.4%	74,821 54.1%	▲ 8,414 ▲ 0.7%	88.8%	67,488 51.0%
4	営業利益 (売上比)	▲ 3,294 -	▲ 10,979 -	+7,685 -	-	2,346 5.4%	717 1.3%	+1,629 +4.1%	327.2%	▲ 948 -	▲ 10,262 -	+9,314 -	-	▲ 10,262 -
5	経常利益	▲ 2,862	▲ 11,454	+8,592	-	2,103	1,209	+894	173.9%	▲ 759	▲ 10,245	+9,486	-	▲ 10,245
6	当期純利益	7,448	▲ 15,188	+22,636	-	634	592	+42	107.1%	8,082	▲ 14,596	+22,678	-	▲ 14,596
7	EBITDA※3	▲ 687	▲ 7,989	+7,302	-	3,519	2,203	+1,316	159.7%	2,832	▲ 5,786	+8,618	-	▲ 5,786

※1. 前年同期の数値は収益認識基準の変更を反映し、当年値と同様の基準に置き換えている

21.2期3Q累計の数値は、基準変更による組替額 売上高+6,058百万円 売上総利益・販管費+7,333百万円を調整

※2. 組替前の前年同期の数値は『2022年2月期 第3四半期決算短信』の、2021年2月期第3四半期の数字に当たる

※3. EBITDA (営業利益+減価償却費およびのれん償却費)

3ページに戻りまして、第3四半期期間の売上総利益につきましては、事業構造改革による不採算事業の整理に伴う売上の減少の結果、金額自体は14億円の減少となりましたが、在庫や値引きのコントロールなどにより、売上総利益率につきましては7.7ポイントと大幅に改善し、244億円の売上総利益を確保いたしました。続きまして第3四半期期間の販管費につきましては前年同期比87.9%、221億円となり、前年同期比で30億円ほど減少いたしました。

営業損益につきましては、繰り返しになりますが売上総利益率が前年同期比で7.7ポイント上昇したことで、損益は前年同期比16億円改善し、23億円の営業利益を計上いたしました。

続きまして、経常利益の欄をご覧ください。

為替差損益および助成金収入等の増減の影響もあり、第3四半期期間の経常損益につきましては、21億円となりました。当期純利益につきましては、6億円となりました。

以上が、この第3四半期期間の連結合計の数値でございます。

以上の結果、第3四半期累計期間では、売上高は前年同期比89.9%の1,244億円となり、営業損益と経常損益はそれぞれ赤字ではありますが、前年同期からいずれも90億円を超える改善となりました。また、当期純利益につきましては、資産の効率化の一環として上期に実施いたしました固定資産の売却、関係会社株式の売却等による利益により81億円となりました。

続きまして7ページをご覧ください。

事業セグメント別実績

(百万円)

		上期				3Q期間				3Q累計					
		22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比		
1	国内	アパレル	売上高	52,182	52,868	▲ 686	98.7%	31,452	32,467	▲ 1,015	96.9%	83,634	85,335	▲ 1,701	98.0%
			営業利益	▲ 3,637	▲ 8,269	+4,632	-	1,688	▲ 444	+2,132	-	▲ 1,949	▲ 8,713	+6,764	-
	ライフスタイル	売上高	17,848	15,649	+2,199	114.1%	9,341	9,218	+123	101.3%	27,189	24,867	+2,322	109.3%	
		営業利益	1,493	738	+755	202.3%	1,226	1,185	+41	103.5%	2,719	1,923	+796	141.4%	
5	国内計	売上高	70,030	68,517	+1,513	102.2%	40,793	41,685	▲ 892	97.9%	110,823	110,202	+621	100.6%	
6		営業利益	▲ 2,144	▲ 7,531	+5,387	-	2,914	741	+2,173	393.3%	770	▲ 6,790	+7,560	-	
7	海外	アパレル	売上高	10,047	14,897	▲ 4,850	67.4%	2,360	11,449	▲ 9,089	20.6%	12,407	26,346	▲ 13,939	47.1%
			営業利益	▲ 487	▲ 2,831	+2,344	-	▲ 292	37	▲ 329	-	▲ 779	▲ 2,794	+2,015	-
	ライフスタイル	売上高	708	1,483	▲ 775	47.7%	417	254	+163	164.2%	1,125	1,737	▲ 612	64.8%	
		営業利益	▲ 431	▲ 267	▲ 164	-	▲ 417	▲ 233	▲ 184	-	▲ 848	▲ 500	▲ 348	-	
11	海外計	売上高	10,755	16,380	▲ 5,625	65.7%	2,777	11,703	▲ 8,926	23.7%	13,532	28,083	▲ 14,551	48.2%	
12		営業利益	▲ 918	▲ 3,098	+2,180	-	▲ 709	▲ 196	▲ 513	-	▲ 1,627	▲ 3,294	+1,667	-	
13	連結合計	売上高	80,785	84,897	▲ 4,112	95.2%	43,570	53,388	▲ 9,818	81.6%	124,355	138,285	▲ 13,930	89.9%	
14		営業利益	▲ 3,294	▲ 10,979	+7,685	-	2,346	717	+1,629	327.2%	▲ 948	▲ 10,262	+9,314	-	

※3Q累計期間は欧州12月~8月 アジア・北米1月~9月

※前年同期の数値は収益認識基準の変更も反映し、当年値と同様の基準に置き換えている

※国内アパレル (オンワード樺山 オンワード商事 アイランド オンワードパーソナルスタイル 他10社 計14社)

海外アパレル (JOSEPHグループ8社 J.PRESS 恩瓦徳時尚貿易 他8社 計18社)

国内ライフスタイル (チャコット クリエイトヨーコ 大和 KASHIYAMA DAIKANYAMA 他6社 計10社)

海外ライフスタイル (オンワードピーチリゾートグアム 他9社 計10社)

2022年2月期 3Q実績 事業会社別



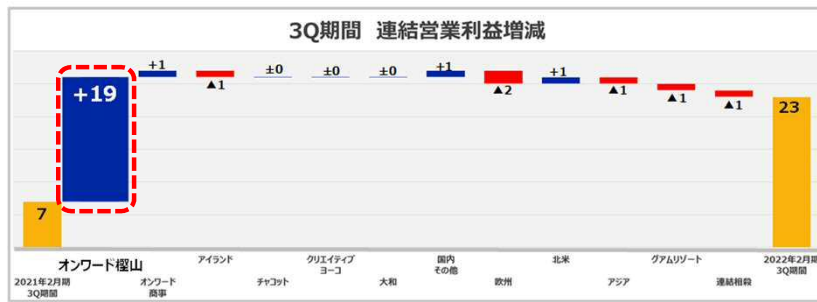
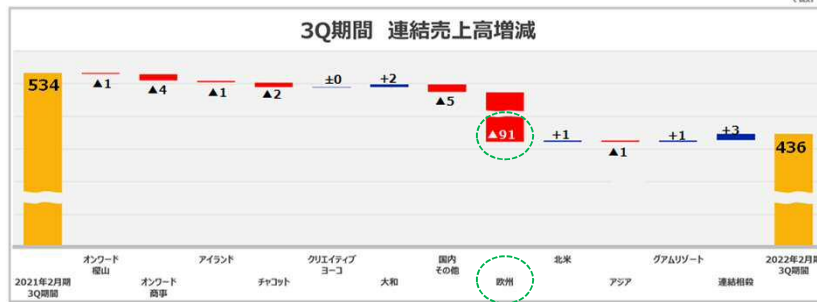
(百万円)

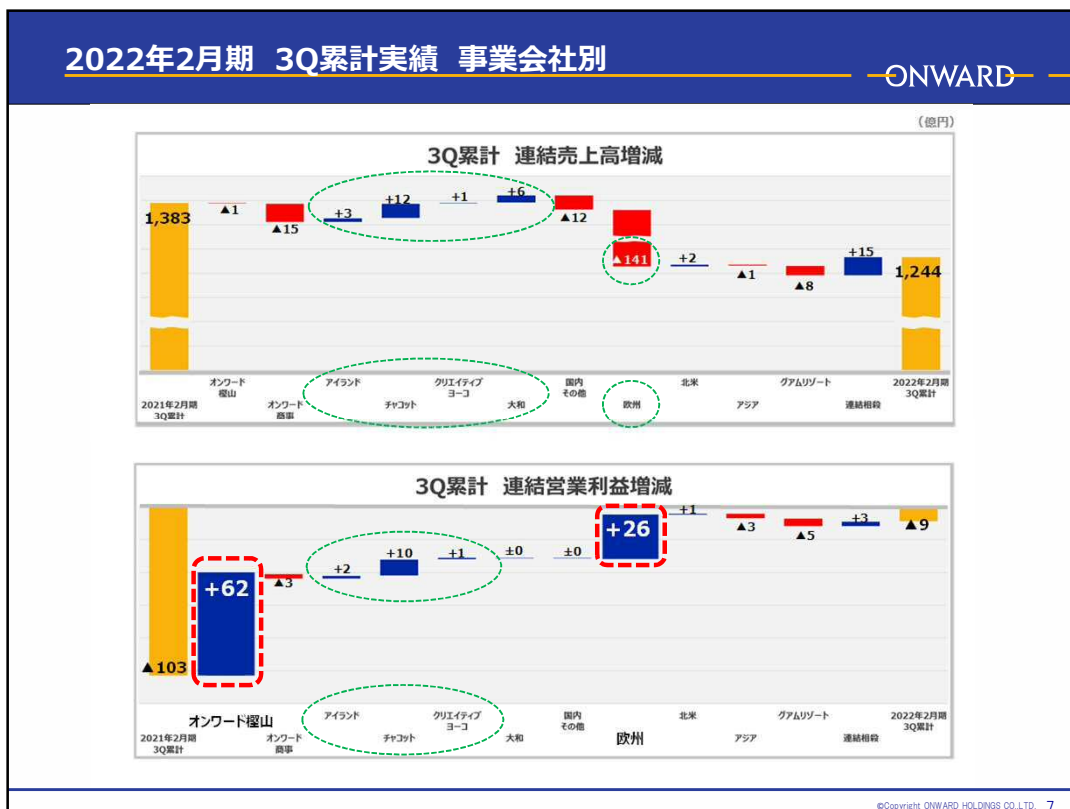
	上期						3Q期間						3Q累計						
	売上高			営業利益			売上高			営業利益			売上高			営業利益			
	22.2期	21.2期	増減	22.2期	21.2期	増減	22.2期	21.2期	増減	22.2期	21.2期	増減	22.2期	21.2期	増減	22.2期	21.2期	増減	
1	オンワード (山形)	40,784	40,784	±0	▲1,977	▲6,301	+4,324	26,098	26,205	▲107	2,373	497	+1,876	66,882	66,989	▲107	396	▲5,804	+6,200
2	オンワード商事	7,578	8,635	▲1,057	1,067	1,454	▲387	3,295	3,720	▲425	203	177	+26	10,873	12,355	▲1,482	1,270	1,631	▲361
3	アイランド	2,813	2,425	+388	▲124	▲413	+289	1,516	1,600	▲84	7	58	▲51	4,329	4,025	+304	▲117	▲355	+238
4	チャコット	4,445	2,961	+1,484	283	▲632	+915	2,058	2,323	▲265	192	171	+21	6,503	5,284	+1,219	475	▲461	+936
5	国内 クワイティグーコ	2,223	2,123	+100	68	▲17	+85	1,357	1,371	▲14	145	121	+24	3,580	3,494	+86	213	104	+109
6	大和	9,282	8,956	+326	548	484	+64	4,931	4,706	+225	325	365	▲40	14,213	13,662	+551	873	849	+24
7	その他	6,010	6,727	▲717	▲744	▲627	▲117	3,557	4,065	▲508	103	1	+102	9,567	10,792	▲1,225	▲641	▲626	▲15
8	国内グループ <small>(除く1社は別)</small>	32,351	31,827	+524	1,098	249	+849	16,714	17,785	▲1,071	975	893	+82	49,065	49,612	▲547	2,073	1,142	+931
9	欧州計	8,822	13,815	▲4,993	▲47	▲2,808	+2,761	1,877	10,943	▲9,066	▲73	91	▲164	10,699	24,758	▲14,059	▲120	▲2,717	+2,597
10	北米計	297	189	+108	▲231	▲259	+28	181	83	+98	▲89	▲152	+63	478	272	+206	▲320	▲411	+91
11	海外 アジア計	2,211	2,181	+30	▲78	170	▲248	982	1,089	▲107	▲95	▲39	▲56	3,193	3,270	▲77	▲173	131	▲304
12	グアムリゾート計	150	1,033	▲883	▲312	115	▲427	90	8	+82	▲163	▲82	▲81	240	1,041	▲801	▲475	33	▲508
13	海外グループ <small>合計</small>	11,480	17,218	▲5,738	▲668	▲2,782	+2,114	3,130	12,123	▲8,993	▲420	▲182	▲238	14,610	29,341	▲14,731	▲1,088	▲2,964	+1,876
14	連結合計	80,785	84,897	▲4,112	▲3,294	▲10,979	+7,685	43,570	53,388	▲9,818	2,346	717	+1,629	124,355	138,285	▲13,930	▲948	▲10,262	+9,314

※グループの内訳は単純合算 連結合計には相殺消去含む

※前年同期の数値は収益認識基準の変更も反映し、当年値と同様の基準に置き換えている

(億円)





こちらに連結合計の数値を、事業会社別に分解しました資料を掲載しております。

上段は、連結売上高の事業会社別の増減について記載しております。一番左端の黄色い棒グラフは前年度第3四半期累計期間の売上高で1,383億円、一番右端は今年度第3四半期累計期間の売上高で1,244億円になっております。約139億円の減収の要因ですが、一番大きいものが欧州、特にイタリア事業の構造改革によるものです。真ん中よりやや右ほどに、欧州の赤い棒グラフがございますが、ご覧の通り、前期に不採算事業からの撤退を行ったことによる売上高の減少が、この第3四半期累計期間に141億円ございます。139億円の減収の大半は、このことをご説明がつくかと思えます。

一方で、一番左端のアパレル事業の中核会社のオンワード樺山につきましては、売上高が前年度の第3四半期累計期間とほぼ同額となっております。オンワード樺山につきましても、事業構造改革によりかなりの数の不採算店舗の廃止、あるいは不採算ブランド事業からの撤退を前年度に行っており、この改革に伴う売上高の減少が112億円程度ございます。一方、既存事業を中心に前年同期比で111億円増収となり、結果として、前年同期とほぼ同額の売上高を確保いたしました。

連結売上高の増減の3つ目の要因につきましては、アパレル関連事業のアイランドとライフスタイル関連事業の中核となるチャコット、クリエイティブヨーコ、大和の3社におきまして、コロナ禍の大変厳しい経営環境ではありましたが、いずれも増収を達成しております。

これらを合計いたしまして、連結売上高は前年同期比139億円の減収ではありますが、損益につきましては、事業構造改革の成果を織り込むことができていると考えております。その成果は、下段の連結営業利益の増減を事業会社別に分解した棒グラフをご覧ください。

前年度第3四半期累計期間は103億円の営業損失という大変厳しい結果になりましたが、今年度第3四半期累計期間につきましては、営業赤字幅を大幅に削減して、9億円の営業損失で着地いたしました。前年同期から93億円、営業損益が改善したわけですが、その内訳につきましても、丸印をつけております。3つの要因で概ねご説明ができるかと考えております。

1つ目が一番左端の、アパレル中核事業会社のオンワード樺山でございます。オンワード樺山は、売上はほぼ前年並みで推移しましたが、不採算事業、不採算店舗を廃止して、より競争力のある事業あるいは店舗に集中をした結果、営業損益は62億円改善し、営業赤字に転換することができました。

また、真ん中やや右の欧州事業ですが、事業撤退等によりまして売上が141億円減少いたしました。逆に赤字事業からの撤退で営業損益を26億円改善いたしました。

それから3つ目に、アパレル関連事業のアイランドとライフスタイル関連事業のチャコット、クリエイティブヨーコにおきまして各社とも損益を改善いたしました。国内ライフスタイル関連事業におきましては、この第3四半期累計期間に着実に増収増益を実現しております。

以上、第3四半期累計期間の連結合計及び主要な事業会社別の内訳について、ご説明をさせていただきました。

続きまして、8ページをご覧ください。

2021年4月1日以後に新年度を開始する企業に適用となる
「新収益認識基準」について、当グループは当期から早期適用をする。

【新収益認識基準による当グループに与える主な影響】

百貨店との消化取引（売上仕入取引）において、従来は家賃相当額を差し引いた純額を売上高としていたが、小売販売高を「売上高」、家賃相当額を「販管費」にそれぞれ計上する。

販管費としていたポイント利用料は「売上高から控除」する。

上記の変更により、営業利益には影響がない。

新収益認識基準の適用により、流通別に異なっていた売上計上基準が統一される。

こちらには、新収益認識基準を早期適用するという当社の方針についてのご説明を掲載しております。

これは、第1四半期および第2四半期の決算発表のときにもご説明させていただきましたので詳細は差し控えますが、新収益認識基準の早期適用については、このページをご参照いただければと思います。

なお、これまで補足説明資料でご説明した数値につきましては、全て前年同期の数値を新基準に置き直した形で記載し、ご説明を申し上げます。

続きまして、9ページをご覧ください。

財務狀況

■ 連結貸借対照表

		(億円)		
		22.2期3Q末	21.2期末	増減
1	流動資産	698	804	▲ 106
2	現金・預金	176	213	▲ 37
3	売掛金	178	182	▲ 4
4	棚卸資産	303	343	▲ 40
5	固定資産	976	1,155	▲ 179
6	有形固定資産	590	718	▲ 128
7	無形固定資産	94	106	▲ 12
8	投資その他の資産	290	330	▲ 40
9	総資産	1,674	1,960	▲ 286
10	負債	1,017	1,365	▲ 348
11	買掛金	207	219	▲ 12
12	借入金	509	780	▲ 271
13	純資産	656	595	▲ 61

■ 指標

		22.2期3Q(末)	21.2期(末)	増減
14	自己資本比率	39.0%	前期末 28.9%	+10.1%
15	発行済株式数 千株	157,921	前期末 157,921	-
16	期中平均株式数 千株	135,614	前年同期 135,374	+240

■ 設備投資の状況

		(百万円)		
		22.2期3Q	21.2期	増減
17	設備投資	3,738	前年同期 5,556	▲ 1,818
18	減価償却	3,501	前年同期 4,211	▲ 710

連結貸借対照表につきましてご説明させていただきます。

左側の項目番号9、第3四半期末における総資産は、固定資産の売却や在庫の効率化の取り組み等の結果、1,674億円と、前年2月末との対比で286億円減少いたしました。

項目番号2、現預金については、欧州事業撤退に伴う資金の効率化を図ったことなどにより、37億円減の176億円となりました。

項目番号4、棚卸資産は、欧州事業からの撤退や在庫コントロールによる仕入抑制などにより、前年2月末との対比で40億円減の303億円となりました。

結果として、項目番号1、流動資産合計で106億円減の698億円となりました。

項目番号6、有形固定資産は、資産を効率的に運営するという方針のもと、土地・建物の売却を進め、前年2月末との対比で128億円減の590億円となりました。

項目番号5、固定資産は179億円減の976億円となりました。

項目番号10、負債は1,017億円と前年2月末との対比で348億円減少しました。

項目番号11、買掛金は、欧州事業からの撤退やオンワード樫山での仕入抑制に伴い、12億円減の207億円となりました。

項目番号12、借入金は、固定資産売却による収入を借入金返済に充当したことなどにより、271億円減の509億円となりました。

項目番号13、純資産は、前年2月末から61億円増加し656億円となりました。

次に項目番号14、自己資本比率につきましては、前年2月末の28.9%から10.1ポイント上昇して39.0%となり、適正水準と考えている40%の水準までほぼ回復いたしました。

項目番号17、設備投資は、37億38百万円で、主な内訳は、大連新工場への投資、システム等のDX関連投資などです。必要最低限の設備投資に留めております。

項目番号18、減価償却は、35億円と前年同期から7億円減少しております。

以上、2022年2月期第3四半期末の財務状況をご説明いたしました。

DATA BOOK

10ページ以降は、データブックとなっております。ご参照ください。

販路別売上高

海外を含む連結合計のEC売上高は107億円（前年同期比11%増）となった。
国内事業のEC化率は27.0%、自社EC比率は86.6%となった。

(百万円)

	百貨店	SCその他	リアル販路計	自社EC	他社ECメール	EC計	売上高計	EC化率	自社EC比率
1 オンワード豊山	10,570	8,608	19,178	6,102	818	6,920	26,098	26.5%	88.2%
2 売上構成比	40.5%	33.0%	73.5%	23.4%	3.1%	26.5%	100.0%		
3 前年同期比	92.6%	104.6%	97.6%	101.8%	143.3%	105.4%	99.6%	1.5%	-3.1%
4 国内EC対象事業会社8社※	2,305	6,070	8,375	2,701	546	3,247	11,622	27.9%	83.2%
5 国内EC対象事業会社計	12,875	14,678	27,553	8,803	1,364	10,167	37,720	27.0%	86.6%
6 売上構成比	34.1%	38.9%	73.0%	23.3%	3.6%	27.0%	100.0%		
7 前年同期比	94.3%	98.8%	96.7%	108.6%	131.4%	111.2%	100.2%	2.7%	-2.1%

※ エコマースを運営している国内事業会社
(アイランド ティアクラッセ オンワードパーソナルスタイル チャコット クリエイトイブオーコ 大和 インティメイツ KOKOBUY)

販路別売上高

海外を含む連結合計のEC売上高は315億円（前年同期比7%増）となった。
国内事業のEC化率は29.7%、自社EC比率は87.3%となった。

(百万円)

	百貨店	SCその他	リアル販路計	自社EC	他社Eメール	EC計	売上高計	EC化率	自社EC比率
1 オンワード樫山	25,990	21,084	47,074	17,744	2,064	19,808	66,882	29.6%	89.6%
2 売上構成比	38.9%	31.5%	70.4%	26.5%	3.1%	29.6%	100.0%		
3 前年同期比	88.8%	121.0%	100.8%	93.6%	153.8%	97.6%	99.8%	-0.7%	-3.8%
4 国内EC対象事業会社8社※	6,935	16,470	23,405	8,301	1,710	10,011	33,416	30.0%	82.9%
5 国内EC対象事業会社計	32,925	37,554	70,479	26,045	3,774	29,819	100,298	29.7%	87.3%
6 売上構成比	32.8%	37.4%	70.3%	26.0%	3.8%	29.7%	100.0%		
7 前年同期比	92.8%	111.3%	101.8%	102.7%	136.7%	106.0%	103.0%	0.8%	-2.8%

※ エコマースを運営している国内事業会社
(アイランド ティアクラッセ オンワードパーソナルスタイル チャコット クリエイトイヨーコ 大和 インティメイツ KOKOBUY)

販管費

	上期				3Q期間				3Q累計			
	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比
	(百万円)											
1 人件費	18,134	22,069	▲ 3,935	82.2%	8,641	10,023	▲ 1,382	86.2%	26,775	32,092	▲ 5,317	83.4%
2 賃借料	10,870	11,056	▲ 186	98.3%	6,461	7,122	▲ 661	90.7%	17,331	18,178	▲ 847	95.3%
3 運賃運搬費	3,083	3,125	▲ 42	98.7%	1,502	1,633	▲ 131	92.0%	4,585	4,758	▲ 173	96.4%
4 広告宣伝費	2,810	3,475	▲ 665	80.9%	987	1,622	▲ 635	60.9%	3,797	5,097	▲ 1,300	74.5%
5 減価償却費	1,843	1,966	▲ 123	93.7%	791	977	▲ 186	81.0%	2,634	2,943	▲ 309	89.5%
6 その他	7,572	8,001	▲ 429	94.6%	3,713	3,752	▲ 39	99.0%	11,285	11,753	▲ 468	96.0%
7 販管費計	44,312	49,692	▲ 5,380	89.2%	22,095	25,129	▲ 3,034	87.9%	66,407	74,821	▲ 8,414	88.8%
8 特別損失振替額	1,062	3,118	▲ 2,056	34.1%	249	354	▲ 105	70.3%	1,311	3,472	▲ 2,161	37.8%
9 (参考)実質販管費	45,374	52,810	▲ 7,436	85.9%	22,344	25,483	▲ 3,139	87.7%	67,718	78,293	▲ 10,575	86.5%

※前年同期の数値は収益認識基準の変更を反映し、当年値と同様の基準に置き換えている

営業外損益

	3Q累計			
	22.2期	21.2期	増減	前年同期比
(百万円)				
10 受取利息	45	44	+1	102.3%
11 受取配当金	92	117	▲ 25	78.6%
12 為替差損益	▲ 24	▲ 512	+488	-
13 助成金収入	804	703	+101	114.4%
14 その他営業外収益	648	551	+97	117.6%
15 支払利息	▲ 304	▲ 361	+57	84.2%
16 持分法による投資損失	▲ 66	▲ 51	▲ 15	129.4%
17 その他営業外費用	▲ 1,005	▲ 475	▲ 530	211.6%
18 営業外損益	190	16	+174	1187.5%

特別損益

	3Q累計			
	22.2期	21.2期	増減	前年同期比
(百万円)				
19 固定資産売却益	17,924	2,592	+15,332	691.5%
20 投資有価証券売却益	103	8	+95	1287.5%
21 関係会社株式売却益	2,944	-	+2,944	-
22 雇用調整助成金	269	1,697	▲ 1,428	15.9%
23 臨時休業等による損失	▲ 1,311	▲ 3,722	+2,411	35.2%
24 関係会社株式売却損	▲ 1,829	-	▲ 1,829	-
25 関係会社整理損	▲ 1,968	-	▲ 1,968	-
26 減損損失	▲ 728	▲ 1,827	+1,099	39.8%
27 投資有価証券評価損	-	▲ 1,657	+1,657	-
28 事業整理損	-	▲ 953	+953	-
29 その他	▲ 321	▲ 334	+13	96.1%
30 特別損益	15,083	▲ 4,196	+19,279	-

(百万円)

オンワード樫山単体

	上期				3Q期間				3Q累計			
	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比	22.2期	21.2期	増減	前年同期比
1 売上高	40,784	40,784	±0	100.0%	26,098	26,205	▲ 107	99.6%	66,882	66,989	▲ 107	99.8%
2 売上総利益 (売上比)	22,468 55.1%	21,351 52.4%	+1,117 +2.7%	105.2%	15,911 61.0%	14,408 55.0%	+1,503 +6.0%	110.4%	38,379 57.4%	35,759 53.4%	+2,620 +4.0%	107.3%
3 販管費 (売上比)	24,445 59.9%	27,652 67.8%	▲ 3,207 ▲ 7.9%	88.4%	13,538 51.9%	13,911 53.1%	▲ 373 ▲ 1.2%	97.3%	37,983 56.8%	41,563 62.0%	▲ 3,580 ▲ 5.2%	91.4%
4 営業利益 (売上比)	▲ 1,977 -	▲ 6,301 -	+4,324 -	-	2,373 9.1%	497 1.9%	+1,876 +7.2%	477.5%	396 0.6%	▲ 5,804 -	+6,200 -	-

※前年同期の数値は収益認識基準の変更を反映し、当年値と同様の基準に置き換えている。

国内グループ小計

(オンワード樫山除く)

5 売上高	32,351	31,827	+524	101.6%	16,714	17,785	▲ 1,071	94.0%	49,065	49,612	▲ 547	98.9%
6 売上総利益 (売上比)	16,188 50.0%	14,710 46.2%	+1,478 +3.8%	110.0%	8,393 50.2%	8,593 48.3%	▲ 200 +1.9%	97.7%	24,581 50.1%	23,303 47.0%	+1,278 +3.1%	105.5%
7 販管費 (売上比)	15,090 46.6%	14,461 45.4%	+629 +1.2%	104.3%	7,418 44.4%	7,700 43.3%	▲ 282 +1.1%	96.3%	22,508 45.9%	22,161 44.7%	+347 +1.2%	101.6%
8 営業利益 (売上比)	1,098 3.4%	249 0.8%	+849 +2.6%	441.0%	975 5.8%	893 5.0%	+82 +0.8%	109.2%	2,073 4.2%	1,142 2.3%	+931 +1.9%	181.5%

※単純合算 (オンワード樫山を除く国内グループ会社)

※前年同期の数値は収益認識基準の変更を反映し、当年値と同様の基準に置き換えている。

海外グループ小計

9 売上高	11,480	17,218	▲ 5,738	66.7%	3,130	12,123	▲ 8,993	25.8%	14,610	29,341	▲ 14,731	49.8%
10 売上総利益 (売上比)	4,384 38.2%	5,114 29.7%	▲ 730 +8.5%	85.7%	1,323 42.3%	3,710 30.6%	▲ 2,387 +11.7%	35.7%	5,707 39.1%	8,824 30.1%	▲ 3,117 +9.0%	64.7%
11 販管費 (売上比)	5,052 44.0%	7,896 45.9%	▲ 2,844 ▲ 1.9%	64.0%	1,743 55.7%	3,892 32.1%	▲ 2,149 +23.6%	44.8%	6,795 46.5%	11,788 40.2%	▲ 4,993 +6.3%	57.6%
12 営業利益 (売上比)	▲ 668 -	▲ 2,782 -	+2,114 -	-	▲ 420 -	▲ 182 -	▲ 238 -	-	▲ 1,088 -	▲ 2,964 -	+1,876 -	-

※単純合算

※前年同期の数値は収益認識基準の変更を反映し、当年値と同様の基準に置き換えている。

通期連結業績予想について

最後に、通期の見通しについてですが、第4四半期に入ってから冷え込みが強まったこともあり、冬物衣料の販売が堅調に推移していることや、本格展開を始めたOMOストアの売上が健闘していることなどが後押しとなり、国内アパレル事業の回復傾向が引き続き継続しております。

なお、先日公表いたしました12月度の売上も堅調に推移しております。

さらに、イタリア事業を中心としたグローバル事業構造改革の成果が全面的に現れてきており、海外事業の期間利益の大幅な改善が見込まれることから、通期としては上期終了時点で公表いたしました予想数値の達成に向けて取り組んでおります。

以上、2022年2月期第3四半期の決算内容の説明をさせていただきました。

ご清聴ありがとうございました。

ONWARD

ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。
この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は
一切責任を負いませんのでご承知おきください。